

ARMY

Active
Reliance
Morale
Yeaming

第48号
SPRING
2010



■ TOPIC
PHOTO OF THE YEAR 2009
NEWS OF THE YEAR 2009
ハイチ国際緊急医療援助隊

■ ACTIVITIES
各方面隊
中央即応集団
陸上幕僚監部・防衛大臣直轄部隊

■ EVENT INFORMATION



守りたい人がいる
陸上自衛隊

PHOTO OF THE YEAR 2009

最優秀賞

「防人」

第2師団司令部 陸曹長 類瀬明義

大変恐縮です。写真は、昨年の師団演習「EAGLE EYE 2009」での一コマ。陽が落ちかける夕暮れ、鮮やかなグラデーションのなか、陣地を工事する隊員達。映画のワンシーンの様に感じ夢中に撮りました。手持ちだったのですがブレない様連写で勝負！特に技術の無い自分の写真は、現場主義でその場に居れば誰でも撮れるものばかりですが、その場に居る努力はチームの2通大写真班とともに最大限傾注しています。「見たら撮れ！」師匠の教えと上司の指導を実践中！（※師匠：カメラマン宮嶋氏）

月まで綺麗に写っていてとてもドラマチックな写真です。撮影者はきっとこの光景に感動したからこそシャッターを切ったのでしょう。その想いはしっかりと写真に反映されています。また昼夜を分かつ任務に就く隊員皆様のご苦労も感じられ、写真を見る我々に多くの情報を伝えてくれます。

広角レンズならではの画面構成も人物の配置も、最良の選択をしていると思います。この写真の前後もいろいろとアングルを変えて撮影されている事と思いますが、それらも見たくなくなりました。陸自の広報写真というと射撃訓練など派手なものに偏りがちですが、こういう写真もたくさん撮影して欲しいです。（評：菊池雅之氏）

* PHOTO OF THE YEAR とは…

ARMY に投稿・掲載された写真の中から、見た人の心に残るような作品を選ぶものです。

プロのカメラマンの審査によって選ばれた作品を紹介することにより、写真技術の向上を図ること、また、陸上自衛隊の活動を写真で見ることによって、活動に対する認識と理解を深め、「こういうことをやっているんだ」という隊員の誇り・自信及び部隊の士気の高揚を図ること、及び隊員家族等に少しでも活動のイメージを伝えることで、不安感を取り除き、陸上自衛隊に対する信頼と協力を得ることを目的としています。

各賞に選ばれた隊員には、賞状・盾（又はメダル）・記念品等が授与されます。

なお、投稿いただいた写真は、防衛省・自衛隊や、陸上自衛隊のホームページ、パンフレット、ポスター等に、積極的に活用させていただきますので、ご了承いただけますようお願い致します。



佳作 (3点)

●「施設学校教育風景」 施設学校（当時）・第5施設団本部（現） 2等陸曹 堀内 葉世



4月上旬、この日は暖かかったのでカメラをぶら下げて駐屯地を歩いていました。ここは学校なので春になると全国から学生が入学し、賑やかに新年度が始まります。グラウンドへ行ってみると陸曹候補生が主である課程が教育の真っ最中でした。僕は、青く澄んだ空に映える桜と希望に満ちた課程学生を温もりのある感じで撮りたいと思い、寝ころんでカメラを上へ向けました。

自衛隊にはやはり桜が似合う。超ローアングルで頭上まで桜を入れこむ発想は、ほふく前進に慣れた陸上自衛官ならではの。バックの晴天と桜とのコントラストは、常に有事に備え厳しい訓練中の自衛隊に比べ、平時の自衛隊教育中のほっと息がぬけるシーンに、平和のありがたさを感じるのには、不肖・宮嶋だけであろうか。技術的には超ローアングルといい、超広角レンズ、順光、タイミングと撮影者の手練ぶりもスゴい。（評：宮嶋茂樹氏）

●「福岡県篠栗町において自治体と協力し、行方不明者を捜索する第4後方支援連隊隊員」 第4通信大隊 2等陸曹 馬場 俊彦

まず一言、この写真を選考して下さいの皆様方、ありがとうございます。数多くの作品の中から受賞することができ、本当に嬉しい限りです。日々、映像・写真業務に従事し、この写真を撮影するにあたり「一枚への執念」が結実したのかなと思います。「感じたときにシャッターチャンス」を胸に、一度しか訪れない瞬間を記録する「必撮!」の精神で被写体に向き合いました。災害現場における惨状と、派遣された隊員たちが、一刻もはやくの想いで人命救助にあたるひたむきな姿に接し、胸が熱くなりました。倒壊した家屋や倒木を排除する隊員と自治体が連携し、必死に活動する姿が大変印象的でした。今後の抱負としまして、さらに感性と洞察力を磨き、自衛隊史に残る映像・写真を記録したいと考えます。



不肖・宮嶋も同じ現場にいたから・・・なんてエコヒキで選んだだけでは決してない。往々にして広角レンズで被災状況をより多く写し込もうとする誘惑にもよくぞ打ち勝ち、望遠レンズで被災現場と自衛官を圧縮する表現は、もはやプロ並みである。良い写真とは、何も正面ばかりでないという見本である。タイミングも、前後列の隊員達のベクトルとテンションが一致している瞬間も狙っていたりしたら、スゴい。しかし・・・この時はお互い雨に悩まされたな・・・自衛官にとって、銃は命であろう。一発でも撃ったら分解掃除は当たり前であるのと同じように、災害派遣現場での撮影後のカメラの清掃手入れも、撮影と同じくらい重要と肝に銘ぜよ。（評：宮嶋茂樹氏）

●「互いを信じ」 東方総監部 1等陸曹 松田 洋



21年度方面訓練検閲時の一コマです。方面航空隊のヘリ（編隊）が、計画された降着地（相馬原演習場）に着陸するシーンです。背景には、高崎・前橋市街を向うことができます。現地に先行し、ヘリを待ち受ける誘導員は、周囲の地形を考慮し安全かつ慎重にヘリを誘導しました。その時期・場所が変わろうとも、ヘリパイロットと誘導員は互いを信じ、いつものように着陸。この部隊の高い精強度を感じた瞬間でした。その時、部隊の前途を見守るかのような力強い西日に照らされるこの情景は、自分の心に強烈に転写されました。

写真はまず、その現場へ出向かなければ撮る事が出来ないことは周知するところですが、さらに取り巻く関係部隊からの協力を得なくてはなりません。他の方々も同じかと思われませんが、私の場合、最終的には第六感が決め手となります。様々なプロセスをくり抜け、全てがマッチングした時に「感ずる写真」は、生まれてくるのではないのでしょうか？

かなりの手練れである。64式小銃に夕日が反射しているのも計算したのならプロ並み。パイロットの顔もパッチリ。そして何よりヘリを中心に持っています。背景の平和そうな町を入れこんだところはスゴい!!まさに平和な市民生活を守るため、訓練を続ける自衛隊の本来任務まで表現しており、もはや哲学的にすら見える。（評：宮嶋茂樹氏）

優秀賞 (2点)

●「未来を掴め」 第2通信大隊 2等陸曹 阿部 裕一



師団演習「EAGLE EYE 2009」での行進訓練を撮影した写真です。夕日に向かって歩いていく隊員の背中に未来を掴むために頑張っている第2師団の隊員と重なって「未来を掴め」というタイトルにしました。夕暮れ時で、辺りが暗くなってきて撮影の限界を感じていましたが、露出を切り詰めて最後まで諦めずに撮影しました。広大な矢白演習場の大自然が生んだ1枚です。

部隊の列が夕陽に向かって一丸となって黙々と進むシーンを上手くとらえている。日頃の隊員たちの連帯感とともに背中から感じる訓練の過酷さや充実感、その先にある自衛隊員の役割の一部である国や国民を守る気迫等が写真から伝わってくる。

作り物の世界ではなくて現実の世界の一部を切り取った詩情ある作品に感じられた。顔は見せずとも、背中から隊員の一人一人の気持ちや人生が伝わる写真ではなからうか。

（評：大野広幸氏）

●「緊急患者空輸」 第12特科隊 3等陸曹 大田 高行

カメラを持って一年に満たない中、東部方面隊初の患者空輸に居合わせ、生命を繋ぐ緊張感の機内で「東京消防庁の職員に患者を引き渡すまでの間で、その緊張感を伝えられないか？構図なんて気にしてられない。がむしゃらにシャッターを切り続けるしかない。」と夢中で切りました。初心者の私は、最初の数枚を暗めな機内の条件に合わせて撮影していたため、何ともいえない写真になってしまったのが悲しいところです。

この度、撮影した写真が選出され光栄の気持ちで一杯です。

第12旅団広報室へ臨時勤務に行けたことは、私にとって非常に大きなものとなり、機会があればまたカメラを持って走り回りたいたいと思う一枚です。

多くの医療器材と複数の民間医療スタッフを機内に収納しての「急患空輸」の現場。

これだけの器材を搭載し、立った状態で医療活動が可能である事、すなわちマークを運用する陸自航空部隊の真骨頂と言えるのではないのでしょうか。ベッド上の患者を見つめるクルーの様子から、「何よりも安全に早く、患者への負担を最小限に」との強い意志を感じ取れます。

多くの災害派遣・民生協力の中で、真に陸自でなければ実行できない任務だと思い、この作品を選ばせていただきました。

実任務遂行中の緊張感のある、貴重な記録だと思います。（評：福田正紀氏）



宮嶋茂樹賞

「HERO」
第2師団司令部
3等陸曹 小山 真美

北海道名寄市の演習場において第2偵察隊の小隊訓練を撮影したものです。事前に「夕焼け越しの雪飛沫舞ってるモービルジャンプを撮って来い!」とむちゃくちゃなニーズを出され、「そんな簡単に撮れるか!!!!!!」と心で思いながらも、なんとかニーズに応えようと必死でモービルを追いかけました。モービルを軽快に乗りこなす姿は本当に格好良く、まさに HERO! 素直にこの格好良さが伝わればと思い速いシャッター速度を選びシャッターを押しました。

南国の駐屯地や演習場では絶対撮れないうえに、地の利のある北海道の部隊だけに、雪のことを知り尽くした作品である。

ここで操縦者の表情まで表現しようと、ストロボなんてたこうもんなら、手前のパウダースノーに反射して、全てが台無しになるところである。まさに夕陽の逆光まで味方につけ、白い雪の反射と背景の黒い林とのコントラストをきわだてるとは、かなり勇気がいったハズ。これを計算していたとなると、これは未恐ろしい。

当然、手練ぞろいの2師団のことだから、雪中での撮影後の道具（カメラ）の手入れもぬかりないことと信じてやまぬ。

この現場から師団司令部の広報室にでもカメラを持ち込もうもんなら、あつという間に結露やで。
(評：宮嶋茂樹氏)



“勝って兜の緒を締めよ”

宮嶋茂樹氏（フリーカメラマン・写真集「自衛隊レディース」他）

年々技術が向上し、昨年以上である。プロのワシラが見ても、どうやって撮ったんやと首をかしげるような傑作も増えてきた。

また今年は今までになかったようなテイストの写真が選考されている。特に、一見無意味に見えるハイライトやシャドウの表現も上手く、それにストーリー性まで

感じられる傑作まであるのは驚かされるばかりである。

しかし・・・勝って兜の緒を締めよは、帝国海軍元帥であられた東郷平八郎の言葉であるが、今一度この東郷元帥の言葉の意味を考え、さらなる修行の成果をのぞみたい。

あと・・・道具（武器）への愛着と同じように、カメラへの心遣いも常に怠らざるよう、更なる健闘を祈る。

菊池雅之賞

「想いが込み上げる」
第2師団司令部
陸曹長 類瀬 明義



自分の古巣 25 連隊のレンジャー帰還式で連隊長から最大の目標であるレンジャーバッジが一一人に渡される。自分の番が来るまでの間、教育期間中の様々な記憶が彼らの脳裏をよぎりバッジを貰う瞬間の感極まる表情に心打たれました。やはり陸上自衛隊は「人」と感じます。自分事ですが、撮りながら題名が浮かぶ時は、良いものが撮れているかなと思っています。

これぞ “陸自らしい” 写真です。長く辛いレンジャー教育が終わり、今まさにレンジャーバッジを受け取る感動的なシーンです。頬がやせけ精悍な顔つきの学生が、最後の力を振り絞って「レンジャー !!」と叫ぶこの一連の流れが音とともに見えてくる作品でした。下からアオリながら撮影した方法も良いと思います。被写体が若干アンダーなのもこの場合は成功です。この写真が賞に選ばれたことを、このレンジャーの方にも教えてあげてください(笑)。これほど素晴らしい写真ならば、きっと退官するまで大事にとっておいてくれることでしょう。
(評：菊池雅之氏)

“まるで映画でも見るようにハラハラドキドキしました”

菊池雅之氏（フリーカメラマン・「J-グランド」等に寄稿）

今回は “人” に迫った素晴らしい写真が多かったです。走り回る音、叫ぶ声、荒い息遣いなどが写真から伝わってくるものが多く、まるで映画でも見るようにハラハラドキドキしながら 1 枚 1 枚見させて頂きました。また最優秀賞作品のようなラストシーンを思わせる無音の情景にも感動いたしました。

皆様のお仕事を考えると、ただ素晴らしい作品を撮るだけではなく、真の自衛隊の姿を国民に伝えるという重要な任務があります。今回選ばれたすべての作品にはこの2つの要素がしっかりと含まれていると思います。今後は数多くの写真（雑誌が手軽で分かりやすいと思います）を見て、良いところがあれば素直に吸収し、次の作品へと活かして欲しいと思います。

福田正紀賞

「小隊長!うまいっす!!」
第2通信大隊
2等陸曹 大谷 弘樹

この写真は、演習状況中に隊員が草むらに身を隠し食事をしているところです。これまでは、なぜか隊員の食事風景の写真は、あまり公表されていませんでした。我々の写真班内でも、食事中は隊員が休憩している所を邪魔したくないため撮影しない、もしくは、撮影しても公表はできないというような考えがありました。しかし、客観的に考えてみれば、食事も状況の一部である事にはわかりありません。我々自衛官なら何でもない状況中の食事風景でも、一般の人々にしてみれば、新鮮に見えるのではないのだろうかと思いシャッターを押しました。一見必撮! 師匠の教えを貫きます。

状況中の現場に配食された温食をほお張る若い陸士長。緊張の連続の現場に流れる、一瞬の暖かい時間が上手く写しとめられています。タイトルと写真の様子から、小隊長と隊員間のしっかりとした信頼関係を感じることが出来ます。あえて状況中の緊迫した写真でなく、食事の場面を撮影された撮影者の視線も良かったです。何とんでも衣食住は人間の基本です。今までの応募作品の中に殆ど見ることが無かったのが不思議なくらいです。身近なところに素晴らしい被写体が隠れている良い例ですね。(評：福田正紀氏)



“日常に思わぬ被写体が”

福田正紀氏（「週刊新潮」編集部カメラマン）

初回より審査をさせていただいて改めて感じるのですが、皆さん本当に熱心に、そして上手くなりました。しかしながら「良い写真を撮りたい」という素直な気持ちの表れだと思いますが、今年の作品の中に昨年の受賞作を意識したものが見受けられました。

心情は分かりますが、大切なのは模倣ではなく、それを越えることです。

「何を撮影すれば良いのか? 毎年同じだからなあ」と思わずに身近なところを見て欲しいと思います。皆さんの日常に、思わぬ被写体が隠れている予感がしています。注意力センサーの感度を上げ、日々の任務にまい進していただければ、写真と仕事両面でよい結果が出ると思います。



「輝け私の愛玩」
東部方面総監部
1等陸曹 松田 洋

大野広幸賞

東部方面隊創立 50 周年記念行事の一つである野外演奏が平成 21 年 10 月 3 日、朝霞訓練場で盛大に行われました。この写真はその際、装備品展示場において、来場者を出迎えるべく、早朝から装備品を丹念に磨き上げる女性自衛官を撮影したものです。最近あることがきっかけで、過去の自衛隊の活動写真に対し振り向く機会を得ました。その結果、過去の作品を見て学んだ事があります。それは隊員の私生活や業務間に見せる表情に目を向けた作品が多い事です。自分の任務である広報誌の作成という分野で、部隊（員）の活躍を日々追い続け、狙うがあまり、被写体に対し自分のイメージ（インパクト）を求めているのか? 自問自答する時間を持つことができました・・・。隊員の素直な生き様・・・。時には自分が素直な気持ちになって撮影し、どうすれば隊員として国民に伝わる広報写真を撮影できるのかと、模索している毎日です。

備品であるトラックのミラーを大切に磨く女性自衛官の視線を上手く捉えている。何気ない写真であるが、何気ないだけに心を打った。

なによりも被写体になった自衛官の眼差しが良い。たかがミラー、されどミラーなのである。この磨く姿から被写体の心の優しさや、部隊内での彼女の姿が想像される。作者もこの大切に扱っている姿の視線の先にある姿を見て心を打ったのではないだろうか?

もし・・・私もこの場にいたら思わずシャッターを押していた事だろう。(評：大野広幸氏)

“写真は眼で見て身体で感じたものが心を揺さぶる”

大野広幸氏（日本写真家協会・写真集「自衛隊ナース物語」他）

フォト・オブ・ザ・イヤー審査の依頼を受けるのが5度目になりました。当初は、部内カメラマンしか入れない訓練地や災害地、PKOなどの海外での活動の第一線から伝えて来る写真に眼を見張る審査でした。回数を重ねて来ると、同じ部隊内で連帯感を感じる写真や裸眼で感動する写真よりも、デジタルカメラの進歩

でのシャッターを押すだけで撮れてしまう写真の傾向に作品が変わって来たように思われるようになりました。

今回の作品の一部に、技術を使った玄人受けをする写真ではなく、思わず素人が撮影したのではないかと思う写真なのですが、まぶたに残りそこから詩情を感じる写真が数点ありました。写真は眼で見て身体で感じたものが心を揺さぶり、その感動がシャッターを押すものだと思います。その思いが第3者の心に伝わって行くものではないのでしょうか?

NEWS OF THE YEAR 2009

Best of no.47 “約230名の隊員が危険箇所を手際よく清掃” 第37普通科連隊 3等陸曹 在間比佐衣



9月3日及び4日、第37普通科連隊（連隊長大庭1佐）隊員約230名は、和歌山市が実施する「史跡和歌山城保護対策協力事業」に参加した。隊員たちは巧みにロープを操り、垂直にそそり立つ急峻な石垣を颯爽と降り、城壁の雑草や枝を鎌等で除去した。天守閣では、レンジャー隊員が屋根先まで行き、ヘラやほうきで瓦の汚れを取り除いた。また、18回目の参加となる今年は、新たな試みとして軽装甲車の展示と高機動車の体験試乗も行った。危険箇所を手際よく清掃作業する隊員の姿を見て、和歌山城を訪れた観光客や道行く市民から、「ご苦労様です。」「ありがとうございます。」と、隊員に激励の声がかかった。

- 防衛記者等の方々からのコメント
- これも大切なお仕事だと思います。
 - 自衛官の幅広い活動が分かる。
 - 隊員が子供達と接したり、城壁や瓦屋根を舞台に活動している様子には、地域になじんでいると、心強く感じた。
 - 「自衛隊ってこんなこともやるんだ」という意外なニュース。目を留めて読みたくなりました。

ハイチ国際緊急医療援助隊



診療風景

診療の合間のコミュニケーション

1月13日、ハイチ共和国でM7.0の地震が発生しました。同国政府からの派遣要請を受けて、我が陸上自衛隊からは医療援助のための情報収集や関係機関との調整を行うことを任務とする調査チーム（CRF 報道官 石橋1佐他陸自隊員10名を含む12名）が、現地に先遣され、21日に本隊であるハイチ国際緊急医療援助隊（隊長 白川1佐）約100名（第13旅団基幹）が、ハイチ共和国レオガンへ派遣されました。23日より医療活動を行っていた医療援助隊は、2月13日に活動を終了するまでの間に、2954名の患者を診療し、18日、無事日本に帰国しました。白川隊長は、帰国するにあたり、「大変充実した22日間であった。」と語りました。

*NEWS OF THE YEARとは…

部内広報をより充実させる施策の一つとして、今回はじめてのものです。ARMY各号に掲載された写真及び記事の中でも、特に『そうそう』と隊員等の共感を得られるもの、または『こういうこともやっているんだ』と興味や関心を引くものを選び紹介することによって、隊員及び隊員家族等の陸上自衛隊の活動に対する認識・理解を深め、隊員の誇り・自信及び部隊の士気の高揚を図るとともに、隊員家族等の不安感を取り除き、陸上自衛隊に対する信頼と協力を獲得すること、また、自分の部隊の活動を他の部隊・隊員にも知って貰いたいという、ARMYへの投稿意欲向上を目的としています。各賞に選ばれた隊員には、賞状・盾（又はメダル）・記念品等が授与されます。

Best of no.45 “「同期の絆」強固に” 第1特科群 陸曹長 岡村吉隆



4月24日、北海道大演習場において、第1特科群（群長 西島1佐）新隊員教育隊はガス体験訓練を実施した。催涙線香が立ちこめるガス天幕の中で、班長を中心に各人の教育間の抱負や郷土の紹介、隊歌斉唱等の工夫を凝らした内容でガス体験が行われた。各隊員は防護マスクの効果をもっと知るとともに、苦しい思いを共有したことによって「同期の絆」が更に強固になった。

- 防衛記者等の方々からのコメント
- 結果が生き生きと伝わってくる。
 - 生き生きした写真文章とよくマッチしている。
 - 息遣いが伝わる。
 - 同期が肩を組んで男泣きしている写真は、催涙線香のせいか、絆を確認している涙か。胸に迫るものを感じました。
 - 3人の表情や巧みな自然光から、緊張感がよく伝わってくる。

Best of no.46 “限界を超えた戦士達が誕生” 第2師団司令部 陸曹長 類瀬明義



7月23日、第25普通科連隊（連隊長大橋1佐）では、第39期レンジャー部隊集合訓練隊が最終想定訓練を終え無事帰還し、30名の精鋭達が駐屯地の熱烈な出迎えを受けた。連隊長が、学生ひとりひとりにレンジャーキ章を授与し「よく頑張った」と労いの声を贈り固い握手をした。

- 防衛記者等の方々からのコメント
- レンジャーの過酷さに関心が高いのでは…
 - 迫力が伝わる。
 - 率直に言って、写真が上手。
 - レンジャーの方は尊敬します。出張先の中東で腹をこわして任務を完遂できなかった隊員もいますが…
 - レンジャーの厳しさの一言を感じられる。
 - 写真がかっこいい。
 - 頑張るレベルが一般の人とは違うんだろうなと思った。

● 連携の重要性を確認

1月30日から31日の間、福島市山岳遭難対策協議会主催の冬山合同救助訓練に、第44普通科連隊第1中隊(中隊長 熊坂1尉)30名が参加し、警察・市山岳救助隊との合同訓練を通じて、遭難救助技術の向上と関係各機関との連携強化を図りました。

基本訓練では、ロープの結び方や万能運搬具を使用した救助訓練要領を行い、実技訓練では登山者1人が崖下に転落したとの想定で、斜面からの引き上げ救助要領について、基本訓練を活かしての救助・搬送要領を演練しました。

また、今回本格的な指揮所訓練として現地対策本部を設置し現場との連携を実施しながら、情報伝達要領や指揮所としての機能を確認しました。参加した隊員は、日頃からの訓練の積み重ねや連携の重要性を認識したうえで、起こり得る様々な冬山災害に対し真剣に取り組んでいました。



ロープワークの指導



救助者を慎重に運ぶ



危険を伴う斜面からの救助

● 教訓をもとに今に備える～東北方面隊震災対処訓練



宮城県災害対策本部会議



第6師団の作戦会議には多くの研修者が



災害対策本部での県との綿密な調整

2月8日から10日までの間、東北方面隊(方面総監 君塚陸将)は、方面隊震災対処訓練を実施しました。これは、近い将来高い確立で発生が予想されている宮城県沖地震を想定とした対処訓練で、震災対処能力の向上を目的に、平成14年から行っています。8日は実動訓練として、発災初期の初動対処要領を仙台・青森・神町を始めとする各駐屯地で、9日から10日は指揮所訓練として、人命救助活動、民生支援の調整段階までを仙台・岩手駐屯地の2会場で行いました。

東北方面隊で8回目となる今回の訓練は、訓練参加を容易にするために指揮所訓練会場を2ヶ所に設定し、また各会場ごと自治体・関係機関・自衛隊の本部・指揮所を1ヶ所に集約させるなど、相互調整、情報共有を容易にするように計画されました。当日は2会場を合わせて63団体、研修者を含めると約2800名が参加する大規模な訓練となりました。

指揮所訓練は、9日午前9時に宮城県沖を震源とするM8.0の地震が発生し、仙台市等で震度6強を観測したという想定から始まりました。リアリティのある情報の付与により会場の体育館は活気に溢れ、自衛隊と自治体・関係機関との情報の共有や相互調整が繰り返されました。

● みちのくスポーツ偉業達成

平成21年11月26日から12月2日までの間、船岡駐屯地は、秩父宮ラグビー場などにおいて実施された第52回全自衛隊ラグビー大会に参加しました。全国の強豪チームがひしめくAブロックにおいて順調に勝ち進み、決勝戦においては宿敵習志野を破り見事優勝を果たし、8連覇を達成しました。

また平成21年11月21日から22日までの間、弘前駐屯地/バスケットボール部は、朝霞駐屯地体育学校体育館で実施された、第23回全自衛隊バスケットボール大会に参加しました。絶対に負けられないというプレッシャーの中、見事優勝し19連覇を達成しました。

さらに1月21日、陸曹長中島克直(第2特科群第130特科大隊本部管理中隊)は、東京ホテルニューオータニにおいて、第59回日本スポーツ賞「銃剣道優秀選手」を受賞しました。日本スポーツ賞とは、昭和26年に読売新聞社が制定したもので、毎年我が国のスポーツ競技団体から推薦された優秀選手、またはチームの中から「日本スポーツ賞委員会」が選考を行い、日本スポーツ界の最高の選手またはチームが選ばれます。中島曹長は、第17回全日本銃剣道選手権において初優勝を果たしたこと、また過去の成績や、現在の指導者としての功績が認められての受賞となりました。

第59回日本スポーツ賞
読売新聞社



銃剣道優秀選手 中島曹長



電光掲示板の前で優勝の記念撮影



3人抜きのカットイン

● 「冬季の戦いに勝つ! ~第101特科大隊冬季検閲」

1月19日から21日の2夜3日にわたり、第1特科群(群長 西島1佐)は、北海道大演習場において冬季大隊検閲を実施しました。

群長は、開始前の訓示において「生き残って戦え」「指揮官は命令で律し、隊員は進んで掌握下に入れ」「健康管理・安全管理」の3点を要望し、戦闘の終始を通じてその具現徹底を図りました。

各隊員は積雪、厳寒、凍土といった冬季の厳しい環境を克服し、任務を完遂しました。第101特科大隊は、冬季検閲で多くの教訓と自信を得ることによって、20榴大隊のモデル大隊へと、また一歩近づくことが出来ました。



着衣が物語る過酷な作業(状況2日目)



厳寒の大地で生き残って戦え!

● 限界を超えても!! 「北鎮師団冬季戦技競技会」

1月14日、雄大な十勝岳連峰を仰ぎ見る上富良野演習場において、第2師団(師団長 渡部陸将)は、「平成21年度師団冬季戦技競技会」を実施しました。競技会は、積雪寒冷地部隊として冬季の作戦行動に必要な戦技能力の向上、隊員の士気高揚、団結力の強化を図ることを目的に、部隊対抗方式で実施されました。開会式において統裁官(渡部師団長)が、「勝利のために全力を尽くせ」「安全管理」の2点を要望し、「訓練成果を正々堂々と存分に発揮せよ」と訓示すると、選手達は部隊の名誉と誇りを懸けて激走しました。当日は天候に恵まれ、選手・統裁部要員約2800名の他、旭川市・名寄市・留萌市・遠軽町・上富良野町から、各首長を始め約200名の自衛隊協力者等の応援によって、選手と地域の応援者が一体になれ、感動を共有した一日になりました。



行くぞー!!



重さを厳しくチェック

● さっぽろ雪まつり史上最高「フ라우エン教会」を制作

1月6日から2月4日までの間、さっぽろ雪まつり大通会場西7丁目HBCドイツ広場において、北部方面通信群(群長 中内1佐)は、ドイツ連邦共和国ドレスデン市にある「フ라우エン教会」の大雪像を制作しました。

雪像の高さは、ステージ高を含め26メートルあり、さっぽろ雪まつり史上最も高いものになりました。雪像制作には、約150名の隊員が約1ヶ月の間参加し、降雪や気温の変化に耐えて、昼夜を通じた献身的な作業により期日の2月4日に完成させ、担当機関に引き渡しました。「フ라우エン教会」の威容は、市民ならびに観光客の注目を集めました。



降雪中の夜間作業



クレーンを使用しての高所作業



完成(引き渡し)

撮影: 第1特科群第1科(上)、第2師団司令部広報室(中)、北部方面通信群写真班(下)



輸送艦「くにさき」で搭載・卸下訓練



海上自衛隊乗組員による搭載した車両の固縛要領の教育

国際緊急援助隊、海上自衛隊と準備訓練

11月19日、海上自衛隊呉基地において、第13旅団（旅団長 平野将補）は、国際緊急援助隊要員及び発進準備支援隊要員の海上自衛隊との統合訓練を実施しました。

本訓練において、端末地における装備品の輸送艦への搭載要領等を演練し、派遣準備の資としました。

今後も国際緊急援助隊要員及び発進準備支援隊要員は、逐次訓練を積み上げ、高い士気のもと技術の習得等練度の向上を図り、出動を命ぜられれば速やかに対応できるよう物心両面にわたる万全の準備を整えています。

実戦的な訓練指導を実施

1月24日から27日までの間、長池演習場において、第7施設群（群長 富田1佐）は、バトラーを使用した対抗方式（攻撃及び防御）による実戦的な群長訓練指導を実施しました。

本訓練指導は自由統裁方式で実施されたため、約160名の攻防両部隊は互いの行動を予測しつつ知恵を絞り、技術を駆使して与えられた任務完遂に邁進しました。

守備部隊となった第304水際障害中隊は、限られた隊力・時間のなかで最大限の創意と工夫により、火力と連携した縦深にわたる障害を構成し、攻撃部隊の前進阻止に努めました。

一方の攻撃部隊は、第382施設中隊が演習普通科部隊となり、慣れない中にも積極的に近接戦闘を実施して攻撃目標を奪取しました。また、これを支援する第380、381施設中隊は、第381施設中隊長の下に集結した完全2コ小隊をもって、積極的に施設支援を実施して、次々と障害を処理し、攻撃部隊の機動等を容易にしました。

訓練参加各中隊は、被支援部隊のニーズに合致した攻撃・防御それぞれの支援について、日頃の訓練成果と問題点を確認するとともに、第7施設群の更なる実戦能力向上のための、多大の成果を得て訓練指導を終了しました。



作戦地域に進入する直前に作戦行動に関する命令下達を行う隊員



侵攻する敵を向かえ撃つ態勢をとる隊員



破壊筒により地雷原処理を行う施設分隊

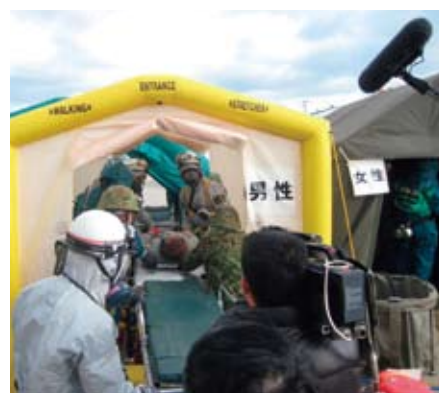


防護マスクを装着し化学攻撃に備える攻撃部隊

統合国民保護訓練（徳島県）～ 関係機関との綿密な調整要領を演練

2月6日、徳島県鳴門市において、中部方面隊は、第14旅団長（鈴木将補）を担任官として平成21年度中部方面隊統合国民保護訓練に参加しました。

本訓練は、緊急対処保護措置並びに政府・県・市及び消防・警察・海上保安庁等の関係機関との調整要領に係る能力の向上を図ることを目的として、実員による訓練（被災者の救出・救助、航空機による患者輸送・緊急物資輸送、化学剤除染、避難住民誘導、避難所運営支援等）と、指揮所訓練（県及び関係機関等との調整、情報収集及び部隊との連絡）が実施されました。



負傷者を除染用天幕に運び込む



負傷者の搬送

平成21年度第2次中級陸曹集合訓練

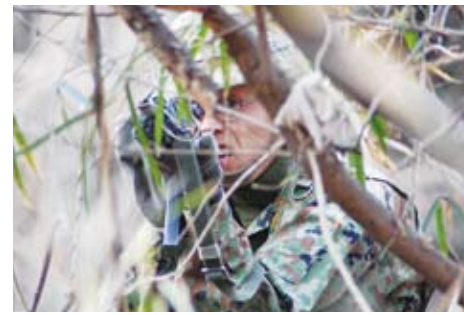
1月18日から2月5日までの間、相馬原駐屯地及び同演習場において、第48普通科連隊（連隊長 山崎1佐）は平成21年度第2次中級陸曹集合訓練を担任・実施しました。本訓練には第12旅団の各部隊から、2等陸曹41名が参加しました。

本訓練は、中級陸曹として必要な知識及び技能を教育し、実員指揮能力、訓練指導能力、服務指導能力の向上を図ることを目的に、集結地の安全化・警戒における実員指揮や、06式てき弾射撃訓練指導法・体育訓練指導法等が実施されました。戦闘職種以外の学生が未経験の訓練もあり、戸惑う場面もありましたが、教育終了時には職種の違いが区別できないほど指揮・指導能力の向上が見られました。また訓練最終日には、「曹士訓練五訓の普及・徹底要領」について命題発表が実施され、旅団長・旅団最優先上級曹長等が視察する中、各班がユーモアを交えながら素晴らしい発表をしました。

集合訓練終了にあたり、参加した学生からは「中級陸曹として責任の重さを認識させられた。」「このような教育は今後の財産になる。」等の所見があり、多大な成果を挙げ教育を終了しました。



06式てき弾射撃を指導する女性自衛官



神経を研ぎ澄ませ警戒!



緊張の中にも冷静沈着な命題発表

両国国技館で国歌を奏でる東部方面音楽隊

年間約80件近くに及ぶ東部方面音楽隊（隊長 志賀3佐）が行う派遣演奏の舞台は様々です。音楽ホールを始めとして、学校・公民館・屋外等々。

1月24日その土俵は、まさしく両国国技館でした。毎年東音は、日本相撲協会の依頼を受け、大相撲初場所における表彰式での国歌吹奏等を担当しています。

今回、演奏に当たったメンバーは、副隊長 星野1尉以下34名のベテランから新人まで揃った隊員たちでした。この日、本支援に初めて参加したドラム担当の石部1士は、「これまで大相撲のファンで、いつもお茶の間の光景でしたが、今日は自らがその一助となれて光栄です。一生懸命演奏します。」と本物の土俵を目前に、高鳴る感動を語りました。

優勝力士が決定し表彰式へと移行。国歌斉唱、得賞歌へと続き、祝賀パレードに向かう力士を正面玄関で行進曲「大空」をもって見送ると任務は終了します。

「演奏は陸上自衛隊東部方面音楽隊・・・前奏に引き続きご唱和下さい。初場所このアナウンスにピンと来たら向正面に目を転じてみて下さい。」



初場所力士優勝が決まり表彰式において、国歌を奏でる東部方面音楽隊

あなたの悩み打ち明けて・・・

1月26日から29日までの4日間、東部方面総監部人事部（部長 藤田1佐）は、第3回初級カウンセリング集合訓練を実施しました。

本訓練は、カウンセリング集合訓練未修者の駐（分）屯地カウンセラー及び部隊相談員に対して、カウンセリング理論・基本的技法について、専門家による教育を実施し、部隊等におけるカウンセラーを養成するものです。

これまで2回実施してきましたが、部隊からの参加希望が多く、今年度は3回目を実施することになりました。

今回参加した受講者60名は、部隊等で悩みを抱える隊員を少しでも減らすべく、防衛医科大学校講師 重村淳氏による精神医学の基礎及び日本産業カウンセラー協会講師 村越登祐氏によるカウンセリング技法と実習等を真剣に受講していました。

受講者からは「傾聴の基本的技法を理解できた。」「実習を通じて、カウンセリングの概要を理解できた。」「部隊相談員として隊員の心身のケアに努めたい。」「今回得た識能を普及教育し、多くの隊員に広めたい。」「部隊相談員として、ある程度自身を持って活動できるようになったと思う。」「原隊において隊員のためになるカウンセリングを実施して悩みの軽減、解消も手助けをしたい。」等の所見を得られました。

これから、定期異動や子供の進学等を含え、職務上や家庭の悩みが多く生じる時期でもあるので、一人で悩みを抱え込まず近くの駐（分）屯地カウンセラーや部隊相談員に気軽に声をかけ、悩みの早期解消に活用して頂きたいです。



カウンセリング実習

ハイチ派遣国際救援隊活動開始！

一日も早いハイチの復興のために・・・

2月5日の政府閣議決定を受け、ハイチ共和国に、ハイチ国際平和協力隊が派遣されることになりました。6日、復興支援活動を行うハイチ派遣国際救援隊に対する隊旗の授与が、鳩山内閣総理大臣、北澤防衛大臣他国会議員ご臨席の下、防衛省において行われました。隊旗は、北澤大臣より派遣部隊長 山本 1 佐（中央即応連隊長）に手渡されました。また、訓示において鳩山総理大臣は、『命を守る国、日本。まさにここにあり。』ということを示して貰いたい』と要望されました。16日（現地時間）、第1次要員は、国連管理用地（ポルトープランス空港地区）の整地作業（砂利敷き等）を開始しました。活動を開始するにあたって、現地では安全を祈願して達磨の目入れが行われ、山本隊長は隊員に対し、「我々が世界一の仕事を、ということに肝に銘じてしっかり頑張ろう。」と決意を述べました。今後、ドーザーや油圧ショベルなどの施設器材を使って、地震被災者を収容するための施設又は設備の設置、瓦礫除去、道路補修等を実施する予定です。



鳩山内閣総理大臣に握手で激励される山本隊長



到着後、整列する派遣部隊



先遣隊から説明を受ける山本隊長



作業開始前点検を行う隊員



砂利敷設作業開始



地表面掘開作業開始



世界で最も大きい航空機アントノフ225への車両積載



アントノフ機内の様子

大隊実射検閲

12月17日から18日の間、両日とも雪の降る日出生台演習場において、第8特科連隊（連隊長 高橋 1 佐）は、大隊実射検閲を実施しました。完全無灯火による夜間の陣地占領に引き続き、大隊射撃を実施して成果を評価判定し、その進歩向上の資を得ました。

渡邊 2 曹からの一言（第 1 大隊第 1 中隊）

「私は、今年度大隊基準砲班長として大隊実射検閲（競技会）に参加しました。大隊の基準砲班長という事で、ほどよい緊張感と重責の中、検閲（競技会）に挑みました。厳しい寒さと降雪のため、班員の士気の維持向上そして、防寒対策に特に留意し、班としての力を最大即発揮できる様に努めました。年度当初から大隊長の必成目標であった、大隊実射検閲優秀・実射競技会優勝を勝ち取る為に日々努力してきました。度重なる連携訓練、訓練後の班のMMIにおいて、大隊長及び中隊長の企図を班員一人一人に徹底し、大隊・中隊または砲班が一致団結した結果、検閲優秀、そして競技会の優勝の成果を獲得する事ができたと思います。砲班長としても練成の成果が実り、非常にうれしく思います。しかしながら、この成果に満足する事なく、来年更に高いレベルに到達できる様、一層努力をして行こうと思います。4年ぶりの優勝、顕彰板奪回、そして大隊長室前に顕彰板が掲示してあることに1大隊の隊員として誇りに思います。第1大隊最高です。」



弾丸装填中の隊員



弾丸を運ぶ隊員

TOTによる弾着の瞬間

平成21年度鹿児島県原子力防災訓練

1月19日、第8師団（師団長 木崎陸将）は、「平成21年度鹿児島県原子力防災訓練」に参加し、県や市の各関係機関との連携要領について演練しました。訓練は、「川内原子力発電所一号機の通常運転中に、主給水ポンプが停止し冷却機能が喪失することにより放射性物質が放出され、その影響が発電所周辺に及ぶおそれがある」という想定で開始され、一連の状況下で行われました。師団は、県災害警戒本部（鹿児島市）から緊急時通信連絡による第一報を受け、第8施設大隊に対して、連絡班を災害対策本部（薩摩川内市）に自主派遣させるとともに、大隊指揮所を開設させました。その後、師団前方指揮所を開設し、第12普通科連隊、第8施設大隊、第8後方支援連隊衛生隊、第8通信大隊及び第8化学防護隊をもって、情報収集体制の確立及び師団災害派遣部隊の派遣見積を行い、地上モニタリング支援・避難対象地域（発電所から半径約10キロメートル以内）の住民の避難援助（避難所への人員輸送）・避難所及び救護所での応急救護支援を実施しました。本訓練を通じ、師団の原子力災害対処能力の向上を図るとともに、防災関係機関との連携強化を図りました。また、地域住民・薩摩川内市民の、安心感及び信頼感を醸成するなど成果が得られました。

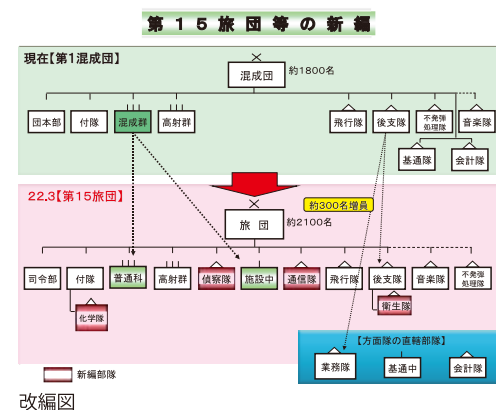


原子力災害現地対策本部



車両の除染

第1混成団から第15旅団へ



新庁舎

第1混成団は、沖縄の日本復帰に伴い、昭和48年10月、普通科中隊と施設中隊が混成された第1混成群と、対空任務のため、5コの分屯地に展開している第6高射特科群とを主力として、約1,800人で編成されました。図のように旅団は、団員約300人増員になります。具体的には、第1混成群を第51普通科連隊と第15施設中隊に、第101後方支援隊を第15後方支援隊と那覇駐屯地業務隊に分け、それぞれ部隊を新編します。また、新たな機能として第15偵察隊、第15通信隊、司令部付隊に化学防護隊、第15後方支援隊に衛生隊などが新編されます。日夜、急患空輸に従事している第101飛行隊は、体制を強化し、第15飛行隊として編成。同じく、第101不発弾処理隊は、方面後方支援隊に編合し、平素は第15旅団長に隷属して業務を実施します。主要な装備は、普通科連隊に高機動車、軽装甲機動車が40両程度整備される他、旅団の装備が逐次導入される予定です。

● 平成21年度末に情報科職種を創設

平成 22 年 3 月 26 日、新たな脅威や多様な事態に実効的に対処するため、陸上自衛隊の情報機能を強化することを目的として、情報科職種が創設されます。新たな職種が創設されるのは、昭和 29 年の陸上自衛隊創隊以来、初めてのことです。情報科職種はいくつかの専門分野に分類され、情報科部隊は各分野の特性に応じた専門技術や知識をもって各部隊等の情報業務等を支援します。また、情報科部隊である方面情報隊が情報科職種の創設と同日に中部方面隊及び西部方面隊にそれぞれ新編されます。



無人偵察機隊 (方面情報隊隷下) に装備された無人機



情報科職種き章

隊旗

ACTIVITIES

ACTIVITIES

● 陸上自衛隊ホームページがリニューアル!



ストレス激減のトップページ



お楽しみ企画満載の「ファンコミュニティ」

もっと陸自!

気軽にアクセス!



携帯サイトもリニューアル!
必見のFLASHコンテンツ!



今すぐアクセス!

PCサイト URL <http://www.mod.go.jp/gsd/>
(検索ワード「陸上自衛隊」)
携帯サイトURL <http://www.mod.go.jp/gsd/mobile/>
(検索ワード「りくじ」)
YouTube URL <http://www.youtube.com/user/JGSDFchannel>
(検索ワード「自衛隊 チャンネル」)



ますます充実!
YouTubeの「陸上自衛隊広報チャンネル」

派遣海賊対処行動航空隊 #3

● 2次要員から確実に業務を申し受け、順調に活動中 # 3

警衛幕僚 大矢 2 佐 (CRF 司令部) 以下陸自派遣隊員第 3 次要員 (約 50 名) は、2 月でも日中の気温が 35℃前後になる暑さの中、ジブチ国際空港一帯で活動しています。陸自派遣隊員は、統合部隊である派遣海賊対処行動航空隊の一員として、海自派遣隊員と連携し、P-3C 哨戒機の整備や基地業務等を整齊と実施中です。第 2 次要員から業務を引き継いで活動を開始しましたが、各隊員の士気は旺盛で業務を順調に遂行しています。



第 3 次要員到着



第 2 次要員から業務を引き継ぐ第 3 次要員 (基地業務隊)



第 2 次要員ジブチ出国



巡回中の警衛隊員



監視中の警衛隊員



監視中の警衛隊員

UNDOF #28 & #29

● 第 28 次要員、任務終了へ

ゴラン高原派遣輸送隊第 28 次要員 (隊長 小山 3 佐) の活動も、あとわずかとなりました。第 28 次要員は、初の除雪支援、警備道補修等、淡々と任務遂行中です。また、第 29 次要員へ確実に申し送りをするための、物心両面の準備を始めています。



施設器材輸送



警備道補修整備における緊急回収



除雪支援

● 29次要員、ゴラン高原へ向け出発

2 月 17 日、朝霞駐屯地において、楠田大臣政務官等ご臨席のもと、ゴラン高原派遣輸送隊 (第 29 次要員) の出国行事が行われ、楠田政務官に対して隊長 佐藤 3 佐 (CRF 司令部) より、「派遣準備完了!」を報告しました。第 29 次要員は、西部方面隊 (第 8 師団基幹、海自・空自を含む。) から選考された 43 名で編成されています。訓示において、楠田政務官は「伝統と信頼を確実に引き継ぐとともに、自らの活動が国際社会の平和と安定の礎となっていることを十分自覚し、任務に邁進して貰いたい。諸官が、我が国の代表として、この名誉ある任務を立派に完遂し、全員が晴れやかな笑顔で無事帰国することを心から祈念する。」と述べられました。18 日、防衛省において、佐藤隊長以下 9 名は、火箱陸幕長に対し出国報告を行い、19 日、第 1 波 26 名が成田空港より出発しました。



宮島中央即応集団司令官に対し、出国準備完了報告を行う佐藤隊長



出国行事における楠田政務官訓示



第 29 次要員

撮影：派遣海賊対処行動航空隊 (上)、ゴラン高原派遣輸送隊 (中)、第 301 映像写真中隊 (下)

EVENT INFORMATION

※天候等の理由によりイベントの日程・内容等を変更する場合があります。事前に陸上自衛隊ホームページをご覧ください。か連絡先の広報等にお問い合わせくださることをおすすめいたします。

Table with columns: 時期, 行事名, 場所(所在地), 連絡先電話番号, 担当部隊. Lists various events across different units and locations.

Table with columns: 時期, 行事名, 場所(所在地), 連絡先電話番号, 担当部隊. Lists various events across different units and locations.

中部方面隊

西部方面隊

投稿要領

編集部では、随時皆様からのご投稿を首を長くしてお待ちしております。投稿要領は、データの場合、300万画素以上の中高画質で撮影したものを、1、3MB未満は部内指揮システムノーツで、陸幕広報室部内広報担当にメールにて、1、3MB以上はCDかMO(写真の場合はキャビネサイズ)にて送付して下さい。その際、いつ誰がどこで何を撮影したものが、必ず明記下さるようお願い申し上げます。なお、ご投稿いただいた写真は、ARMYのみならず、防衛省・自衛隊の制作物等で多く発表させていただきますので、予めご了承下さい。



編集後記

今年度は、訳あって3ヶ月早くフォト・オブ・ザ・イヤーを決定しました。そして今年から新たに、ニュース・オブ・ザ・イヤーを始めました。どちらも「部内広報を充実させる」目的で実施しているものです。同じ自衛官として、他の部隊・隊員達が頑張っている姿を見て、少しだけでも刺激を受けてもらえたらいいなと思います。また、自分の部隊は「こんなことをやっている」という、他部隊の隊員達に誇れるようなことがあれば、是非紹介させていただきたいと思っています。このARMYが、少しでも多くの隊員とそのご家族の目に触れることを祈っています。【アンケート協力へのお礼】

ARMYを、より読みやすくより身近なものに感じてもらえるようにするため、皆様からのご意見をお待ちしています。頂いたご意見を参考に、よりよいものを作成できるように工夫していきたいです。右上のQRコードよりご回答お願い致します。この場をお借りして、フォト・オブ・ザ・イヤーの審査にご協力いただきました大野広幸氏、菊池雅之氏、福田正紀氏、宮嶋茂樹氏(50音順)及び、ニュース・オブ・ザ・イヤーの審査にご協力いただきました防衛記者の皆様方にお礼申し上げます。ご協力いただきまして、本当に有難うございました。

ARMY第48号★2010年春 発行日★平成22年3月18日
編集・発行★防衛省陸上幕僚監部広報室 ARMY編集部
〒162-8802 東京都新宿区市谷本村町5番1号
TEL03-3268-3111
(内線 8-6-40097 FAX 40099)

ARMYは陸上自衛隊ホームページにも掲載されております。是非ご自宅でご家族等と一緒にご覧下さい。

http://www.mod/go.jp/gsd/

表紙★「『完全燃焼』第2師団冬季戦技競技会より」
撮影者：第2通信大隊本部管理中隊写真班
3等陸曹 吉野貴由紀

裏表紙★「攻撃前進する隊員」
撮影者：第6通信大隊写真班 1等陸曹 白田信一

北部方面隊

東北方面隊

東部方面隊・中央即応集団・大臣直轄部隊

中部方面隊

Table with columns: 時期, 行事名, 場所(所在地), 連絡先電話番号, 担当部隊. Lists various events across different units and locations.

Table with columns: 時期, 行事名, 場所(所在地), 連絡先電話番号, 担当部隊. Lists various events across different units and locations.

Table with columns: 時期, 行事名, 場所(所在地), 連絡先電話番号, 担当部隊. Lists various events across different units and locations.

Table with columns: 時期, 行事名, 場所(所在地), 連絡先電話番号, 担当部隊. Lists various events across different units and locations.

Table with columns: 時期, 行事名, 場所(所在地), 連絡先電話番号, 担当部隊. Lists various events across different units and locations.